

年収150万円 で暮らす法

吉田 清彦

る。すでに、私が住んでいた人口六万人の地方都市にも自動車学校が出現していた。当時私は大学生で学生運動に熱中していたのだが、それを「心配」した父親が、「学生運動をやめるなら自動車学校の費用を出す」と言いだしたこともあった。

車は「金食い虫」

私は車を持っていない。それに、何よりも、運転免許証を持っていない。

日本が本格的な車社会に突入していくのは田中角栄が「日本列島改造論」を発表した一九七二年あたりからだと思いが、すでに一九六六年にはカー、クラー、カラーテレビの3Cが「三種の神器」ともてはやされて、車時代の到来を告げている。そういえば、その頃（一九五〇年代）五台の車を保有し、日本全土には六千五百万台の車が走り回っているのだとい

18

健康考え歩き回る

う。こういう時代にあつて運転免許を持っていないと言つと、珍獣を見るような目で見られ、「なぜ」とし

つて理由を聞かれることがある。詳しく説明する必要のないような間柄の人には「ええ、まあ、それが親の遺言ですから」とか、「親にもわたった立派な二本の足がありますから」とか答えて煙（けむ）に巻くことにしているが、公共の交通手段の発達している都会に住んでいることもあつて、ふだんの生活では、別段困るというでもない。それどころか、仕事が終わったあと毎晩のように外で酒を飲んでた時代には、車で通勤などして

は随分不便だし、また危険だろうなと思ったりしたものである。

さらに言えば、車にはかり乗っていると運動不足がちになるだけでなく、車を運転する姿勢は脊椎（せきつ）に余分な負担をかけるので、もともと体にあまり良くはない。

それに、はつきり言つて、車は大変お金がかかる。昔一度結婚していた折に相棒が車を持っていたが、購入代金だけでなく、月々の駐車場代、ガソリン代、駐車料金、それに税金、車検代などその他もろもろをすべて合計して月にならすると、優に十万円を超えるという話を聞いて驚いたことがあ



車はもたない。ひたすらバスと電車を乗り継ぎ歩け歩け（神戸市灘区の交差点）

も、ほとんど一日中歩くものだから、次に声をかけても敬遠されることが多い。（フリーライター）